

作成日 2010年6月14日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名

ブルートップ

会社名 株式会社エーエヌテック

住所 滋賀県彦根市彦富町上柳 931-5

担当者 中島 章

電話番号 0749-43-8017 FAX番号 0749-43-3021

緊急連絡先 0748-37-0819

2. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

成分名	CAS No.	含有量	官報公示整理番号
グリオキザール	107-22-2	2%	2-510

<その他の成分>

成分名

着香剤

青色1号

精製水

3. 危険有害性の要約

最重要危険有害性 皮膚に付着すると過敏症の人にはかぶれることがある。

環境影響 分解性(生分解性) 良好的な物質として通産省から公表されている

物理的及び化学的危険性: 引火しない

特定の危険有害性 変異原性試験: 陽性

分類の名称(分類基準は日本方式): その他の有害性物質(変異原性が認められた既存化学物質)

4. 応急措置

吸入した場合 通常の取扱ではグリオキザール自身が揮発することはない。但し高温加熱時の蒸気を吸い込んだ場合やミストを吸い込んだ場合は新鮮な空気の場所に移し、異常があれば医師の手当てを受ける

皮膚に付着した場合 汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぎ捨てる。製品に触れた部分を、水又は微温湯を流しながら洗浄後、石鹼でよく洗う。

目に入った場合	外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は医師の手当を受ける 清浄な水で最低15分間眼を洗浄した後、直ちに医師の手当を受ける。
飲み込んだ場合	洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで 水がよく行きわたるように洗浄する。 水で口の中を洗浄する。大量の水を飲ませ、直ちに医師の手当を受ける

5. 火災時の処置

消化剤	粉末消化薬剤、二酸化炭素
特定の消化方法	一般火災に準じて、消化剤を用いて消化する。 水（グリオキザールが火災の原因とはならないから、他の原因に応じた消化剤を使用する。）

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	こぼれた場所は石鹼水で洗う。
環境に対する注意事項	乾いた砂等を用いて吸収させて回収する。こぼれた場所は石鹼水で洗う。
除去方法	漏れた液を密閉式の容器に集める。乾いた砂等を用いて吸収させて回収する。こぼれた場所は石鹼水で洗う。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	噴霧してミストが飛散するような場合は防毒マスク（有機ガス用） を使用する。
注意事項	作業後は手洗い、洗眼を励行する。使用後の容器は充分水洗した 後処分する。
安全取扱注意事項	ゴム手袋、保護メガネを使用する。前もってパッテテストを実施 し過敏症の人は作業（職務）を変更するよう配慮する。 作業後は手洗い、洗眼を励行する。（基発第312号の2の別添 平成5年5月17日（労働省）に従う。）

保管

適切な保管条件	密閉容器に入れ、直射日光を避けて、一定の冷暗所を定めて保管 する強酸化剤、強アルカリとの接触を避ける。
安全な容器包装材料	HDPE, PP, ステンレス

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	出来るだけ密閉された装置、機器を使用する。局所排気装置の設置、使用が望ましい。
管理濃度	設定されていない。
許容濃度	
日本産業衛生学会	勧告値なし
ACGIH	(2005年度) 0.1 mg/m ³ (グリオキザールとして)
保護具	
呼吸器の保護具	有機溶剤用マスク
手の保護具	ゴム手袋
目の保護具	安全眼鏡、安全ゴーグル
皮膚及び身体の保護具	ゴム手袋、ゴム前掛け

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状	液体
色	青色
臭い	ジャスミン臭
pH	2.0~3.5

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲

融点	データーなし。
引火点	引火しない
	40%水溶液は難燃性であり、沸点においても引火の危険性はない*1

発火点

不燃性

爆発特性

爆発限界	爆発しない　上限——下限——
------	----------------

蒸気圧　グリオキザールの蒸気圧は示さず、殆ど水の蒸気圧に等しい。

密度　1.00~1.01

溶解性

溶媒に対する溶解性　水：任意の割合で溶解する。

その他のデーター　低温で長期間保存すると、グリオキザールの白色沈殿を生ずることがあるが、加温すると再溶解する。

10. 安定性及び反応性

安定性　安定

反応性　(可燃性：なし) (発火性：なし) (酸化性：なし)

(粉塵爆発性：なし) アルカリ性物質によりグリコール酸ソーダーになる
避けるべき材料 強酸化剤、強塩基との接触を避ける。* 4
その他 加熱すると分解し、刺激性の煙と蒸気を放出する* 4
一般のアルデヒド類と共通の反応性がある。

1.1. 有害性情報

急性毒性 経皮 ラビット LD₅₀ 10000mg/Kg * 3
経口 ラット LD₅₀ 7070mg/Kg * 3
局所効果 皮膚や粘膜に対して刺激性がある。
ウサギの皮膚に 545mg を開放適用した場合に軽度の刺激性を示す。
感作性 過敏症の人にはかぶれる事がある。
慢性毒性・長期毒性 データーなし
発がん性 IARC、日本産業衛生学会、ACGIH、EPA、NTP、
EUの発がん性評価物質リストには収載されていない* 9
変異原性 微生物を用いた復帰変異原性試験及び染色体異常試験で変異原性
が認められる事が、労働省から公表されている。* 6 日本合成化
学の委託試験として 8 過齢の雄マウスを用いて腹腔内に 62.5、
125、250mg/Kg を投与した小核試験では陰性であった。
* 8
催奇形性 データーなし
生殖毒性 データーなし
その他 なし
有害性情報のデーターは 40% グリオキザールとしての結果であり製品中には 2%
の含有なので有害性としては少ない。

1.2. 環境影響情報

残留性/生分解性 : 分解性(生分解性) 良好的な物質として通産省から公表されている。
* 5
生態蓄積性 : データーなし
生態毒性
魚毒性 水棲生物に対する 96 時間半数致死濃度 1000 ppm 以上 * 2
その他 なし

1.3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 汚染容器・包装

可燃性溶媒（アセトン等）と混合し、焼却する。

大口の水で希釈して少しづつ活性汚泥処理装置等で処理してから放流する。

14. 輸送上の注意

国際規制 該当なし

国連分類 国連の定義上危険物に該当しない

輸送の特定の安全対策及びに条件

強酸、強アルカリと混載しない。

漏えいに注意し皮膚に付着しないようにする。

15. 適用法令

法規制 基発第341号の2 平成6年6月6日（労働省）

基発第312号の2 平成5年5月17日（労働省）

「変異原性が認められた化学物質による健康障害を防止するための指針」

海洋汚染防止法施行令別表第1 有害液体物質（D類物質）

P R T R 法「特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善に関する法律」

第2条（第1種指定化学物質）番号 65

16. その他の情報

その他 なし

引用文献 *製品安全データーシートの作成指針（改訂版）（社）日本化学会（2001）

安全性カード（I C S C）コンバイラーズガイド 化学工業日報社（2005）

1) 産業中毒便覧 増補版 後藤・池田・原編 医師薬出版（1981）

2) 環境化学物質便覧 環境庁環境化学物質研究会編（1988）

3) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances.(RTECS)

NIOSH(1985-1986)

4) The Sigma-Aldrich Library of Chemical Safety Data Edition II R.E.Lenga(1988)

5) 通産省広報 昭和57年12月28日

- 6) 労働省 基発第341号の2 平成6年6月6日
- 7) 日本合成化学測定
- 8) 日本合成化学内試料
- 9) 発がん性物質の分類とその基準
(社)日本化学物質安全情報センター
- 10) 国際化学物質安全性カード (I C S C) 第4集化学工業日報社

注 意

この情報は新しい知見及び試験などにより改正されることがあります。
記載内容は現時点での入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の
正確さ、安全性を保障するものではありません。注意事項は通常の取扱を対象とし
ものですが、特別な取扱をする場合には、新たに用途用法に適した安全対策を講じ
上で実施願います。総ての化学製品には未知の有害性があり得るため、取扱には
最新の注意が必要です。ご使用各位の責任において、安全な使用条件を設定くださ
るよう御願い申し上げます。